

キュウリ炭そ病及び褐斑病のベノミル耐性菌の発生と
ジエトフェンカルブを用いた防除

三浦靖・楠幹生・十河和博

1. キュウリ炭そ病菌と褐斑病菌のベノミル剤に対する感受性の検定を行った結果、炭そ病菌は93%、褐斑病菌は79%と高率に耐性菌が出現していた。また、それらの耐性菌のほとんどはMIC値3200ppmの高度耐性菌であった。
2. 供試したキュウリ炭そ病菌と褐斑病菌は、ともにジエトフェンカルブ剤とベンズイミダゾール系薬剤(ベノミル及びチオファネートメチル)との間に負相関交差耐性を示した。
3. ジエトフェンカルブとチオファネートメチルの混合水和剤は、炭そ病、褐斑病両病害のベノミル感性・耐性両菌に対して非常に高い防除効果を示した。